

大粒で倒れにくい!

水稻もち品種「ふさのもち」の栽培暦 (Ver.3)

千葉県・千葉米改良協会

★「ふさのもち」の移植時期の考え方(千葉市)

(※)4月の一時的な低温による移植後の生育停滞や、6月下旬から7月上旬の低温による障害型冷害の発生リスクに十分留意して取り組む。特に、県北部は移植時の低温に留意する。

移植期	成熟期
4月上旬(※)	8月23日頃
4月中下旬	8月28日頃
(コシヒカリ4月中下旬)	8月31日頃
5月上旬	9月5日頃

競合

★栽植密度

収量・品質安定のため、栽植密度は18.5株/m²(坪60株植え)とし、極端な疎植にしない。

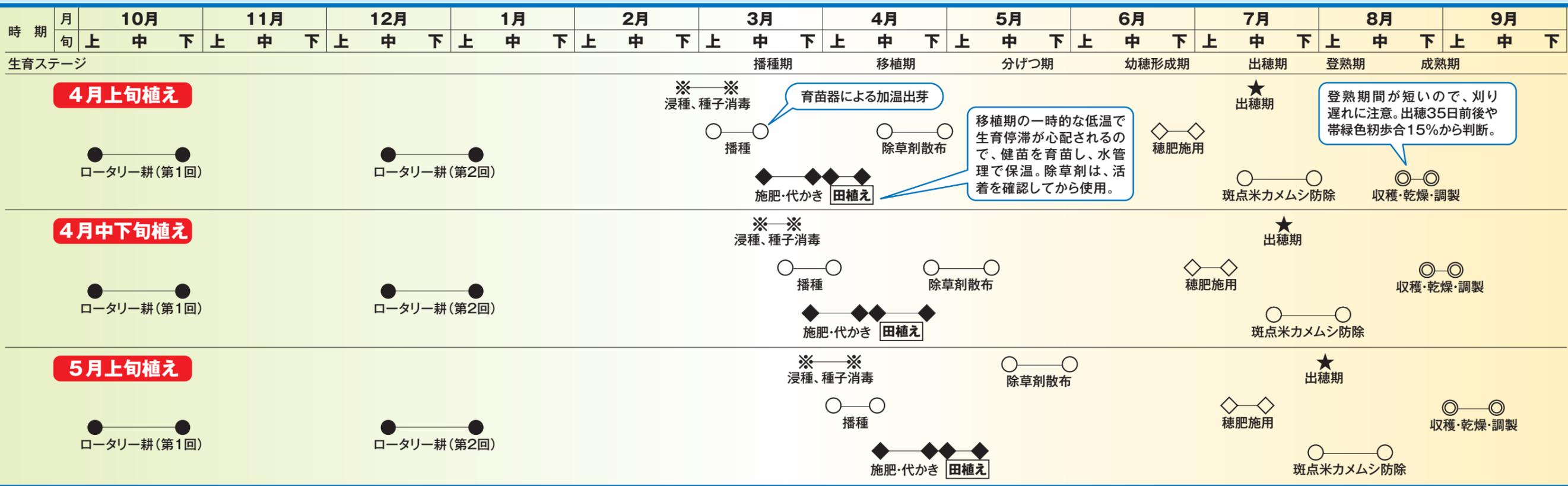
生育・収量の目標値

箱当たり播種量(g)	栽植密度(株/m ²)	幼穂形成期の生育			穂数(本/m ²)	一穂粒数(粒)	粒数(万粒/m ²)	登熟歩合(%)	千粒重(g)	精玄米重(kg/10a)
		茎数(本/m ²)	草丈(cm)	葉色値(SPAD)						
150~170(催芽粉)	18.5(株間18cm)	550~650(30~35本/株)	60~75	38~42(葉色板4~4.5)	360~400	75	28,000~30,000	85~90	23.0~24.0	600(2.0mm選別時)

移植時期と栽植密度

作業体系

施肥体系



★施肥の考え方 (表1,2)

○4月上旬移植

移植直後に低温の影響を受ける可能性がある一方で、生育停滞が生じない場合は茎数や穂数が過剰になるので、**基肥窒素量は最小限にしておく。**
穂肥は、幼穂形成期の目標生育量の範囲内であれば、出穂期前10日(幼穂長10cm)に施用する。
目標値より少なければ出穂期前18日(幼穂長1cm)に早める。また、目標生育量を上回った場合は減肥する。

○4月中下旬移植及び5月上旬移植

幼穂形成期の目標生育量を得るための基肥施用量は、表1のとおり。
穂肥は、幼穂形成期の目標生育量が得られたら、**出穂前18~10日(幼穂長1~10cm)に施用する。**
なお、目標生育量を上回った場合は減肥する。

表1 基肥施用量(施用成分(kg/10a))

移植期	窒素			りん酸	加里
	4月上旬	4月中下旬	5月		
壤質土	4	4	4	7~9	8
砂質土	5	5	5	7~9	8
粘質土	3	3	3	7~9	8

基肥窒素量は、必要最小限にする。

表2 穂肥施用量(施用成分(kg/10a))

	窒素		加里
	壤質土	砂質土	
壤質土	3	3	3
砂質土	3	3	3
粘質土	3(※)	3	3

(※)5月上旬移植は2kg/10aとする。



千葉県マスコットキャラクター チーパくん

★成熟期の予測と判定法

- 収穫適期は出穂期からの日平均気温の積算値が900~1,100℃となる時期で、平年では出穂36~44日後(4月上旬移植の場合は35日前後)。
- 収穫は帯緑色歩合が15%の時期に行う。
- 適期より早期に収穫した場合、青未熟粒が多く玄米品質が劣る。
- 収穫適期を過ぎると玄米品質が低下するので注意する。

成熟期判定

★乾燥と調製

- うるち品種の混入を防ぐために、乾燥機、調製機械を清掃しておく。
- 籾水分14.5~15.0%まで乾燥する。
- 網目1.9mm以上で選別する。

乾燥・調製

★雑草防除

- ほ場の発生草種、草種の葉齢に応じた適切な除草剤を使用する。
- 除草剤散布後7日間は止水管理とする。

病害虫・雑草防除

★病害虫防除

- 病害虫の発生状況をよく観察し、また発生予察情報を参考にして適切に防除する。